

## ◆◆留学体験者の声◆◆

留学の動機	将来の夢のために実用的な英語を身に着けるため。日本とは異なる文化を体験し、自分の見聞を広げるため。	アメリカ
	異文化交流実習として台湾へ二週間の語学研修に訪れ、この二週間を通して台湾の文化、歴史、言語、人柄に興味関心を持った。	台湾(複数回答)
	交換留学を決めたきっかけは就活。3年になって就活の説明を聞いているうちに私は本当に何がしたいんだろうと思い、このまま就活はできないと感じた。そこでそれまでも興味があった留学に挑戦してみようと思った。	アメリカ
	海外の大学院博士課程への進学を希望しており、修士課程在学中にアメリカの教育を体験し、広く国際的な視野を身につけたかった	アメリカ
	アドバイザーに勧められ、自分の希望の職種に関係があることを学べると思った。また、自費で留学するよりも安く行けるから。	アメリカ
	外国に住んでみたい、自分の英語力を試したい、伸ばしたい、見知らぬ環境で自分を試してみたい、日本を外から見てみたい、という自分の気持ちと、専門分野と英語を両立できるという協定校の利点が重なったから。	ラトビア
	中国語のネイティブスピーカーが話す生きた中国語の中に身を置き、中国語の運用能力を高めたいと思った。また、日本の文化や文学等の授業が台湾でどのように行われているのか知りたいと思ったから。	台湾
	高校生の時にできた韓国人の友達や、大学での留学生との交流を通して、お互いを心から理解し合うの必要なのは、言葉だけでなく、文化や背景にあるものも知らなければならぬと考えたので、実際に現地へ行き、自分の目で見て肌で感じたうえで、語学習得に励み、異文化理解をしたいと思ったから。	韓国
	海外で英語を学んだこと、ヨーロッパ内の旅行が比較的容易であること、自分が取り組んでいるフットボールが盛んであること、物価が安いこと、先に留学している先輩が多いことから、この協定校を選んだ。	エストニア
	日本語教育に興味があり、留学先で日本語を勉強している学生と交流したいと思ったから。	台湾
	3年次に参加した異文化コミュニケーション実習で台湾に2週間ほど滞在した。この実習の中で台湾の人々との交流を経て、歴史的にも文化的にも日本と深い関係があることを、改めて知り、日本との関係をさらに学びたいと思った。	台湾
	2012年は日中国交正常化40周年という記念すべき年、日本では中国について積極的に様々な報道がされたことに加え、大学で中国史を専攻し、中国を自分の目で見て確かめてみたいと考えようになり、留学を決意。	中国
	高校生の頃から英語が好きで、学生交流行事でコロラド州立大学生のホームステイを受け入れて、仲良くなった事がきっかけで留学を決めた。	アメリカ
	留学前の語学学習について	留学前にもっと英語力をつけなければと思い、留学する学生仲間や英語に興味がある学生達で週1回英語の勉強会を行った。留学直前まで実施したため、現地に着いてから非常に役に立った。
留学前にはTOEFLテストをあまり苦労せず突破できたので高をくっていたが、留学してから英語ではなかなか苦労した。		英語圏
留学前の数ヶ月間、留学経験のある大学院の先輩に週に1回勉強会を開いてもらい、色々なテーマを設定し英会話の練習をした。自宅ではNHKの語学番組を観ていた。		英語圏
1年生の頃から英語については熱心に勉強していて、留学説明会で交換留学制度を知り、Reading(洋書の読書)Listening(ニュースや映画など)を中心にしてきた。また、費用も大学生生活と並行しアルバイトをして確保した。		英語圏
授業に留学準備やアルバイトと、留学前は満足な勉強時間がとれなかったが、現地についてまず何を話すかなどを想定し、使える英語を重点的に勉強した。		英語圏
留学前の語学力は会話はあるが、英文を書いたりアカデミックな文章を読んだりするのは困難という状態で、特に文法については中学生レベルのものもわからない程だった。そのため、基準点に達するまで非常に苦労した。TOEFLは1回の受験料も安くなく、スピーキングテストがあるなど、大変な事が多いので早めに準備をすることを勧める。また、ETSが出している公式問題集はIBTを受験する人には必須の1冊だと思う。		英語圏
TOEFLのためにライティング、スピーキングの勉強を続けたが、結果的にそれが留学時にとても役に立ったと実感。準備については、ラトビアに留学にしている山大学生がいたので、いろんなことを聞いた。		ラトビア
留学前の語学力(スペイン語)はほぼゼロ。最初の三か月くらいで日常生活に困らない程度のレベルに達した。その後1年ほどかけてようやくスラスラ会話ができるくらいになり、その後の半年で問題なく議論やプレゼンテーション、また日本語の授業を行えるようになった。語学習得にあたっては英語の力が相当活かされた		ボリビア
留学前に中国政府が実施しているHSKという中国語能力試験の三級に合格し、簡単な中国語ぐらいなら理解できると思っていたが、実際にネイティブの中国人を目の前にすると、聞き取ることすら話すこともできず、自分の中国語のできなさに驚いた。		中国語圏
単語の学習は日本にいながらも出来る。文法も日本語で書かれたものを利用した方が効率的。		中国語圏
語学力についてとても不安だったので、中国語検定やHSKを受け、毎日中国語に触れることを心掛けた。	中国語圏	

持参すると便利なもの	電子辞書・クレジットカード・シティバンクの口座(日本からの送金が楽)	アメリカ
	常備薬・日本のキャラクターグッズ	アメリカ
	ノートパソコン(トラブルがあった時の連絡手段として役立った)	アメリカ
	エコバック(スーパーなどのビニール袋は有料のため)	台湾
	USBメモリー・USB変換アダプタ・電圧変換器・折り紙・旅行ガイドブック	エストニア
	マイ箸、風邪薬	アメリカ
	日本の小説。冬物の上着(12~2月は予想外にとても寒く10度前後まで下がる日もあったため)	台湾
	ロシア語の参考書(日本語の解説)	ラトビア
	Citibankの口座 国際免許証 日本語の歴史の本	アメリカ
	お茶漬けなどの日本食(学食で辛い物ばかりだから)	韓国
	留学中の語学・授業について	始めは友達との会話、授業、買い物など、英語を聞き取ることが出来ず、人と関わるのが嫌だと感じた時もあった。
宿題の多さと新しい環境に戸惑い、帰国したいと思ったこともあった。なんとか現状を打開したいと思い、毎授業後に教授の元へ行き、授業でわからなかった事はその日のうちに確認したり、提出物の出来を確認してもらっていた。		アメリカ
留学当初は周りで何を話しているのかさっぱりわからず、自分の言いたい事も伝わらないという日々が続いた。毎日ひたすら勉強して、少しでも授業についていけると、とい気持ちでした。		台湾
前期は、米国の大学へ進学を希望する学生のための語学学校で研修を受けた。レポートやディスカッションではアカデミックなテーマを取り扱うため、毎日の予習復習は膨大な量だった。試験期間に入ると、図書館は深夜12時まで開館しており、至るところで熱心に勉強をする学生を見かけた。日本の大学では見られない光景で、非常に刺激になった。		アメリカ
留学中の語学・授業について	コロラド州立大学内の語学学校は、全米でもかなり優秀なので授業は難しいが、米国大学へ進学するための実力を養成するにはとてもいい学校だった。ただ難しい事を学ぶだけでなく、今までの知識や経験をもとに自分自身の意見をどう表現するかということが求められていて、プレゼン能力は鍛えられたと感じている。	アメリカ
	宿題が毎日課され、プレゼンテーションや試験が教科書の章ごとに行われるので、ひとつひとつの授業に重みを感じた。	アメリカ
	交換留学生の場合、1学期に3~5科目しか履修が出来ないので注意が必要。曜日によって1コマ辺りの授業時間も異なる。(月水金:50分、火木土:75分)日本にいる時と同数の単の取得は、出来なかったほうがよい。	韓国
	韓国語の講義はプレズメントテストはなく、自分のレベル合いそうな内容の授業を飛び込みで探さなければならない。	韓国
	現地大学職員とのコミュニケーションがうまくいかず、履修登録されていなかったり希望していない科目が履修されていたりしたので、しっかりと確認が必要だと感じた。	タイ
	図書館では決まった時間帯に科目別でチューターが駐在していて、しっかりと勉強を教えられたので、とても有意義だった。また、日本のように1回の試験で成績が決まる訳ではなく、毎日の課題も評価されるので、日頃の努力が認められるという点が嬉しかった。	アメリカ
	韓国の講義ではプレゼンの力が特に重視されているようで、資料の内容だけでなく表現力や知識量が問われることもある。そのため、プレゼンの打ち合わせや模擬発表に力を入れている学生の姿が多く見られた。	韓国
	期末試験がある12月は、試験のみならずレポートの提出などにも追われ、肉体的にも精神的にもキツかった。	アメリカ
	春学期は2月から始まるが、5月までに終了してしまう講義も多いので、授業がなくても外へ出て、人々の会話を聞き取る練習をした方がよい。	エストニア
	語学学校の教師から英作文を書くコツとして、接続詞の使い方のアドバイスを受けたので、接続詞の語彙を増やすため、現地新聞を購読した。	イギリス
	滞在数ヶ月後、リスニング力の伸びは感じててもスピーキングはまだまだだと感じた。文章の組み立てを頭で考えてから話すため、会話が途切れてしまうのが原因だと思い、片言でもとにかく考えずに口にする癖をつけた方がよい。	中国
	授業時間は、一時間から三時間と様々で、開始時間も決まりはなく、それぞれの授業で異なる。留学生は、渡されたリストから一週間の間に授業を選び履修を行う。留学生に関しては、履修登録はインターネット登録ではない。また、各授業に定員があり、取りたい授業をとるため履修開始の5時間前から留学生が列をつくる。	ペルー
テスト開始1週間前からは全ての授業が休講になるのが暗黙のルールのように、先生からの知らせもなしに、休講になった。始めはそれがわからず、教室で待っていると、チューターがその事を教えてくれた。	韓国	

	留学生向けに開講されているロシア語の授業を履修した。独学で学ぶより、文法や慣用句などの表現も広がるし、会話の練習になり学ぶことが多くあった。	エストニア
	ネイティブの人と話す機会を通して、自分が語学クラスで話す中国語との違いに気付いた。留学生独自の中国語が身につけてしまいたいのが、少し心配である。	中国
	日本人同士と一緒にいたり、日本語を話せる韓国人と日本語で会話してしまったりと、日本語を使う頻度が高かったため、韓国語を使うことを徹底していきたい	韓国・中国・台湾にて同回答多数
	留学に行くまでにHSK等の検定を受ける等中国語の勉強はしていたが、実際留学当初は自己紹介ほどしかできず、ほぼ話せない状態。日本語学科の友人は、日本語を駆使して履修登録などを手伝ってくれた。中国語を話したくても全く口から出さず、友人から“日本語でもいいよ”と言われることがとても悔しく、その後は意地でも日本語は話さないと心に決め、中国語学習に取り組んだ。	台湾
	家賃は人によって八千円くらいから二万円後半の人もいて様々である。食事は学食だと一食100~150円で済む(ナシゴレン、ミーアヤムなど)	インドネシア
	日本語学科の友達の宿題や発表の手伝いをしていた。まだ日本語があまりうまくない1年生の手伝いをする時はこちらの韓国語能力もかなり必要なので、韓国語の練習にかなり役に立った。	韓国
留学中の生活について	現地の学生から、日本の社会情勢や文化について質問されることが多く、答えられない事が多々あった。	各国から同回答多数
	アーリントン市は公共の交通機関が発達しておらず、大学で夏は隔週、秋は週1回の頻度で買い物ツアーのバスを用意しているが、出発時間や行先、乗車定員が決まっているため、使い勝手が良いとは言えない。そのため、正規学生など車を所有している友人を作る必要もあると思うので、英語で積極的にコミュニケーションを取る度胸と語学力がなければ、留学先として選ぶには厳しいと思う	アメリカ
	大学付属の語学学校( Idiomas)があるため、そこでスペイン語を勉強する事ができる。しかし、語学学校での授業料が無料ではない。そのため、一か月360 /S (約15,000円)の別途授業料を払う必要がある。授業は、月曜から金曜の9-11時の週5日行われるため、午前中に授業を入れることはほぼ不可能であるといえる。この語学学校は、大学の学生だけではなく社会人や他の留学生のためにも開かれているため、異なる国籍の生徒が通っている。また、大学からバスで約一時間の距離にあるため、移動に時間を要する。	ペルー
	寮は大学から徒歩20分のところにある。ピソ(アパートのシェアルームのような部屋)に比べると少し高い。部屋には自分の部屋と共同のキッチンがついており、部屋は広いため不自由なく暮らすことができる。キッチンには冷蔵庫が1人につき1つずつと、コンロ2口、電子レンジ、食器などはすべて揃っている。	スペイン
	語学学校にはラージクラスという語学レベル関係なく受けることができる授業がある。90分の講義形式で毎週あるが、自由参加式であるためテストはない。台湾語の授業や会話の授業もある。	台湾
	毎週金曜日に多くの留学生が集まるパーティーが開かれており、英語を話す機会が欲しかったので、積極的に参加した。	アメリカ
	オクラホマ大学の寮はKraettliとTraditionsを選ぶことができる。Kraettliは4人で1つのお風呂とトイレを共同で使うため、少し不便。またTraditionsのほうが台所も広く乾燥機や洗濯機、そして食器洗い機もついているので、Traditionsがおすすめ。	アメリカ
	大学内でクリスマスフェアが開催され、留学生中心で運営するインターナショナルカフェへ緑茶クッキーを作って参加した。それまで話す機会がなかった他の留学生との交流も深めることが出来て、良い思い出となった。また、友人宅にお邪魔して、ヨーロッパ式の家庭のクリスマスを体験することが出来た。	エストニア
同じ中国語でも、北京人の発音は独特のものがあり、4ヶ月の留学期間でリスニング力が上がったと思っていたが、少ししか内容が理解できず悔しい思いをした。	中国	
高熱を出し、救急車で病院に行った。点滴やレントゲン、薬の処方など、診察代に約3,500円ほどかかったが、海外旅行保険に加入していたため、全額戻ってきた。	エストニア	
旧正月の時期は学生寮には人がおらず、寮周辺の飲食店も休業になるため、寮に残る場合は、レトルト食品などを備蓄しておくといふ。	中国	
冬服は日本から持参しなかったため、モールに買い物に行ったが自分に合ったサイズを探すのが難しかった。	アメリカ	
11月に入ると急に寒くなった。大学にもアパートにも暖房がなく、どこに行っても寒かった。	台湾	
サマータイム制度があるので、時計を合せるのを忘れると授業へ遅刻する原因ともなるので、注意が必要。スマートフォンなどは、自動的に時間を合せてくれる。	アメリカ	

留学中の生活について	寮のクローゼットをルームメイトに占領されてしまった。	中国	
	夏休みは寮の食堂が休業だったり、シャワーも温水が出ないなど、不便だった。また寮への入館日や退館日が指定されているので、その点も面倒だった。	韓国	
	国際電話は高いので、Skypeなどインターネット電話を活用した。	アメリカ	
	来てすぐの月は、布団・枕、コップや歯磨き粉、自転車、衣類、電気スタンド、教科書、ファイル・ノート、食費等で、約8万円を使った。	アメリカ	
	ルームメイトが勝手に部屋に人を集めたり、彼女を泊めたり、人の物を勝手に使用したりと、トラブルが多いが、お互いに中国語もまだ上手くなく、その上自分も英語力がないため、なかなか解決できなかった。	中国	
	寮のキッチンにある専用ロッカーや冷蔵庫に入れておいたもの盗まれたり、勝手に食べられたりして、管理人やルームメイトと話したが、何も解決しなかった。食べ物に限らず、大事なものは自分の目が届く範囲に置くべきだとおもった。	エストニア	
	留学生活に慣れてきた頃に携帯電話を盗まれた。	中国	
	学校前にチェーンを掛けて止めていた自転車を盗まれた。	アメリカ	
	オクラホマ大学には大学の保険がある。日本に入った保険でもオクラホマ大学の保険の条件をカバーすることはできる。ただ、手続きが少し難しいので、お勧めとしては日本で安い保険に入りオクラホマの保険にも入った方がよい。1年在学する生徒は約10万円かかる。	アメリカ	
	国際キャッシュカードを作った(現地のコンビニなどに設置されているATMなどで、日本の銀行口座から現地通貨で引き出すことができる。)台湾はとてとてもコンビニが多く、手数料も300円ほど、とても便利。	台湾	
	日本からお金を送ると多額の手数料がかかるので、ほぼ手持ちで持ってきた。カードを作らなかつたので、海外で使えるカードは絶対に作ったほうがよい。また地元の銀行口座を開設するので、そこでクレジットカードを作った。	韓国	
	店の前で突然話かけられお金をせがまれたり、道を聞かれた人に家までついてこられたりした。またマフィアやドラッグ中毒者も町中にいるので、外出の際は周囲に注意する必要がある。	エストニア	
	留学を終えてみて	中国語を使う機会があれば積極的に参加したり、HSKを受けたりして培った語学力を維持するために努めている。	中国
		語学力だけでなく内面も変わり、前より社交的になった。色々な人の話を聞いて、こんな生き方もあるんだなと思ひ、影響を受け、価値観が変わった。	アメリカ
最初に苦労したぶんだけ、成長出来ると実感した。最初は英語が出来なかつたため、授業も面白いと思えず、友達もできず、自分がみじめになることもあった。だが、友達と楽しく話したいという一心で、必死で英語を勉強した。		アメリカ	
沢山の友人が出来たことが一番の収穫。一時的な交友関係ではなく、その友人が日本に来たり、山大を訪れてくれたりと、手紙やSNSを通じて交流を維持している。		中国	
留学中に親類が亡くなった。以前から体調が思わしくないと聞いていて、一時帰国するか迷ったのだが、親やその親類は覚悟の上で自分を留学へと送り出してきていた。その気持ちに応えるためにも、与えられた機会を無駄にしないよう、一層勉強に励もうとう気持ちになった。		匿名	
留学前に自分なりに語学を勉強していたつもりだが、実践はほとんどしなかつたことを後悔した。もっと話せば辛い思いをこんなにしなかつただろうし、友達ももっと沢山出来ただろうと思う。しっかり準備が出来た状態でスタートラインに立てばよかった。		アメリカ	
就職関連サイトにはいくつかエントリーしていたが、ネットだけでは動向が読めずあまり詳細な情報を得ることが出来なかつたため、本格的に就職活動を始めたのは帰国後(3年の12月以降)になってしまった。これでは遅すぎると感じたので、自己分析や適職診断などは遅くとも秋には始めたほうがよい。		台湾	
日本を離れて分かる日本の良さ、家族のありがたみというものがある。カルチャーショックとまではいかなくとも、やはり日本人の丁寧で親切的な性格や日本の伝統料理は、他の文化をよく知ること初めてその真価が理解できるものだと思う。		アメリカ	
留学先にはこだわる必要はない。どこにしようか気持ち次第で学ぶことはたくさんあるし、何よりいい刺激となる。「行きたい」と思ったなら、自分の希望の留学先に行けるように努力すること。青春時代の最期だからしかできない留学はきっとこれからの人生でいろんな形で自分を助けてくれると信じ、これからも死ぬまで精一杯生きていこうと思う。		アメリカ	
自分はどこでも暮らしていけるという自信がついた。アメリカの生活にパーフェクトになじむことができたし、また様々なトラブルを乗り越えることで、適応能力がついた。		アメリカ	
留学生活中はよく日本のことについて聞かれる。話題は当然ながら様々、日本にいる間はなるべく広くアンテナを張り巡らせ、留学先で使えそうな話題を少しでも自分の中に多く作っておくのが良い。		中国他複数回答あり	
強いて言うならこの留学は私に「生き方」を教えてくれた。次はこの生き方を通して自分を育て上げ、ボリビア社会と日本社会、非常に大げさかもしれないがグローバル化する世界に影響を与えられる人間になりたい。	ボリビア		

履修のアドバイス	留学先の大学にどんな授業があり、どんな勉強が出来るのかというのを、留学前に大学のHPや留学経験者から自分で聞き、ある程度把握しておくべき。	各国から 同回答多数
	英語での授業というのは想像以上に難しいので、できるだけ自分の専門に近い授業を選択した方がよい。	アメリカ
	学部の専門科目には単位互換が出来る科目が少ない場合もあるので、日本に居る間に卒業に必要な単位は出来るだけ履修しておいた方がよい。	エストニア
	しっかり何を勉強したいか明確にすること。レベルの高い授業にも臆することなく、まずは挑戦してみることに。	アメリカ
	留学先では自分の興味のある科目を無理せず履修したほうがよい。	韓国
	興味のある授業は1度授業に参加してみると良い。シラバス等の授業の内容を読んでいても、実際行ってみないとわからないことがたくさんある。周りの学生と話しておもしろそうな授業の情報を集めると良い。	ラトビア
	授業はシラバスがないので事前の情報収集が難しい。授業のタイトルとはかけ離れた内容、難易度で展開される授業もいくつかある。これについては実際に担当教授のもとへ足を運んで質問したり、周りの友人に聞いたりするのが最も有効だと思われる。	ボリビア
	テキサス大学アーリントン校の授業のコード番号はHist1212のように、4けたの数字が並ぶが、3000番台はJuniorから、4000番台はSeniorじゃないと取れない難しい授業なので、それは2つ位までにしたほうが良い。	アメリカ
	日本の大学と同様にレポートの課題も課される。こちらは引用や参考文献を必ず提示しなければならない。アメリカではプレジャリズム(PLAGIARISM)という不正行為の一種としてみなされており、最悪の場合は退学もありうる。	アメリカ
	ERASMUS計画により、ヨーロッパ各国から派遣された留学生が多数おり、山大との学術交流協定による交換留学とは全くプログラム内容が異なるため、取得出来る単位にかなり差があるので、事前に自分が取得可能な科目を調べてから留学すべき。	エストニア